

音声ペン実践報告

1 対象 高等部 生徒

2 狙い

- ①日常生活で聞こえてくる音の意味付けを通して、環境理解の基礎固めをする。
- ②アクティブラーニングとして、生徒の主体的な学びを促す。

3 教材

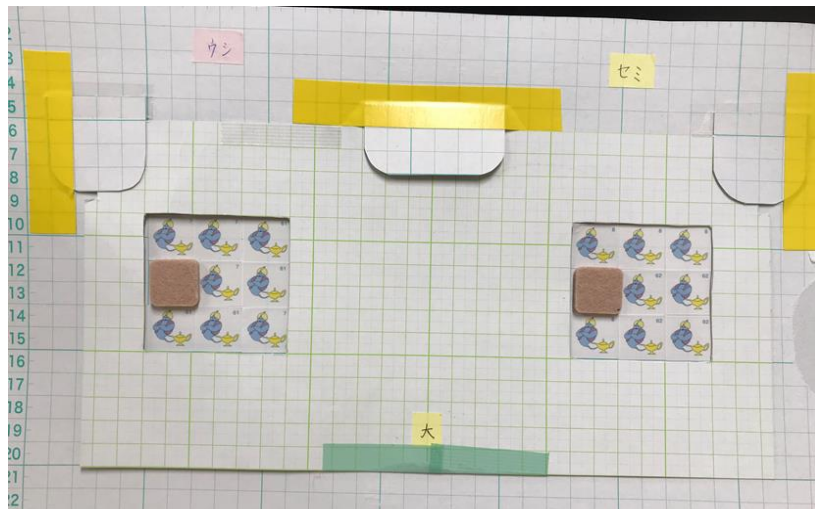
- ①音声ペン(学習に必要なボタン以外にカバーを添付)
- ②環境音(動物の鳴き声や乗り物の音など)を取り入れたシート

4 取り組み

- ①「ひだり」「みぎ」の指示で、その方向に手を添えるように促す。
- ②手を添えた位置で音声ペンをタッチして、音が出るかを確認する。
- ③聞こえてくる音が何を意味するか、言葉で表現する。

※工夫した点

- 手で位置を確認できるようにシートに溝を作り、マットを貼った。
- 音をじっくり聞いて考えられるように、1つ20秒以上流れるように録音した。
- 生徒の実態に合わせて枠を大(6×6cm)、中(5×5cm)、小(4×4cm)と用意し、差し込めるようにした。



5 成果

- ①生徒が自分でペンを持ち、自分で音の確認ができた。
- ②音の意味をじっくり考えて、自分の言葉で表現できた。
- ③右と左の位置関係の学習になった。
- ④自分でペンを耳に当てて、楽しみながら取り組めた。
- ⑤音の停止を自分で操作できるようになった。



6 今後の課題

- ①シートが動きにくいように固定していく必要がある。
- ②生徒の興味・関心の引く声や音を、より一層取り入れながら取り組みたい。
- ③その日の時間割をペンで確認する実践などを取り入れたい。